

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和8年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	1 探究学習を中核として、自己肯定感を高め主体的に自己実現に向かうことができる生徒を育成する。 2 基礎学力の向上と学習意欲の喚起を図るとともに、自分で自分の学びを調整しながら進路希望の実現にむけ粘り強く取り組む生徒を育成する。 3 保護者や地域と連携した取り組みを積極的に推進し、地域貢献できる生徒を育成する。 4 教員集団が互いの良さを認め合いながら組織的な学びの場を構築し、授業改善研修や生徒指導研修、I C T活用研修等を通じて生徒の成長を支援する。 5 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を遵守することによる、生徒と向き合う時間を確保する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ②自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ②個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①自己の可能性を肯定的にとらえ、意欲的に学ぶことができる生徒 ②地域に関心をもち、地域の自然や文化、産業に興味を持って自ら学ぶことができる生徒 ③主体的に行動し、困難を乗り越え、仲間と協力しながら、粘り強く取り組むことができる生徒 ④教室での学習活動だけでなく、課外活動にも熱心に取り組むことができる生徒	
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標
沖縄県立芸術大学の教員より「協働的な学びの推進」と題して講演してもらった。その後、互見授業を行い、教員の授業力アップにつなげた。 また、大学と連携し、	(1) 教育の質の向上、学習評価の改善・授実、 ・「授業改善の推進」「個別最適な学び」「協働的な学び」「指導と評価の一体化」 (2) 自ら学び続ける力の構築	・I C T環境の効果的な活用より、学ぶ意欲を向上させ、能動的・主体的な学びを推進するとともに、探究的な学びの機会を創出し、確かな学力＊を育成する ＊知識・技能 ＋ 課題を発見する力、論理的思考力、コミュニケーション力 ・指導と評価を一体化させ、教員の指導改善や生徒の学習改善につなげる

総合的な探究の時間の内容を充実させることができた。今後は、さらに各学年のテーマに沿った内容を計画的に行い、本校の探究学習を深化させていく。 R 7 年度の大学進学率は、約44%であり前年より微増であったが、国公立大学の合格者も5人と前年度を下回った。今後、スタディサプリ等を活用し家庭学習の習慣を身に付けさせる。 遅刻指導をした成果で遅刻者は減少した。一方で規範意識の低下や、基本的な生活習慣が身につけていない生徒が、一定数おり生徒一人一人が自律できるような取組が必要である。	(3) 就職、大学、専門学校卒業後の進路を見据えた指導 ・進路情報の提供 ・生徒に寄り添った指導 (4) 県内大学との連携を活かした指導	・前年度同等の大学進学率、国公立合格者を目指す。 ・公務員、就職者の内定 100%を目指す。 ・生徒・保護者に、早い段階から積極的に進路情報を提供しよう努める ・進路選択と科目選択を関連づけた丁寧な指導に努める ・生徒や保護者の意向を汲み、個々の状況に応じたきめ細かい指導を行う ・進路希望の実現に向け、粘り強く取り組むよう支援・指導する
	(5) 生徒支援・学級経営時間の管理を意識した遅刻指導 (6) 生徒に寄り添った指導、対話による指導 (7) 生徒の自律を醸成する指導。 (8) 校内の美化に努める。	・時間厳守、挨拶励行などの基本的な習慣が身につくよう粘り強く指導する ・身だしなみ等については、本校規定に基づいて教職員全体で指導する ・実態にあわない規定については見直し、実効性のあるものにする ・教職員全体での情報共有を確実にし、組織的に対応する ・有事の際には、法令および「いじめ対応マニュアル」により対応する ・計画的面談・緊急的面談を実施し、生徒理解に基づく丁寧な指導、学級運営を行う ・各種事案を担当等が抱え込まず、組織的に対応する ・スクールカウンセラー等を積極的に活用する
	(9) 教職員の多忙化の解消	・統合型校務支援システムや採点システムの有効活用 ・ペーパーレス化等による会議の簡素化の取組を継続 ・業務の平準化を図る
	(10) 社会貢献する志を育む教育の実践と情報の公開を行う。	・成年年齢引下げに係る対応に取り組む ・総合的な探究の時間での探究活動やボランティア活動等、地域貢献意欲や自己有用感を高める活動を推進する ・ホームページや note をとおして新潟東高校の魅力や生徒の活躍を発信する。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
(1) 教育の質の向上、学習評価の改善・授実 (2) 自ら学び続ける力の構築	・ I C T 環境の効果的な活用より、学ぶ意欲を向上させ、能動的・主体的な学びを推進するとともに、探究的な学びの機会を創出し、確かな学力*を育成する *知識・技能＋課題を発見する力、論理的思考力、コミュニケーション力 ・指導と評価を一体化させ、教員の指導改善や生徒の学習改善につなげる	・到達目標を明示して、生徒に「できるようになった」を実感させる授業とする。	
		・互見授業や大学の教員を招いた研修会を行い、探究的な学びの機会を創出し、確かな学力を育成する。	
		・探究的な学びと探究的な学びを融合させ、「授業改善の推進」「個別最適な学び」「協働的な学び」「指導と評価の一体化」につなげる。	
		・ベル着を徹底させるとともに、週末課題や日常的な家庭学習課題への取り組みをとおして、自ら学ぶ学習習慣を身につけさせる。	
		・スタディサプリ等を利用して、基礎学力や受験に対応できる実践的な学力の定着を図る。	

(3)就職、大学、専門学校卒業後の進路を見据えた指導・	・前年度同等の大学進学率、国公立合格者を目指す。	・日々の学習を評価し、生徒に振り返りを促すことで学習習慣を身に付けさせる。		
	・公務員、就職者の内定 100%を目指す。	・3年間を見通した進路学習をととして、早い時期から自己理解に努め、学習指導、生活指導と連携しながら職業観を養うことで進路目標を明確にする。		
	・生徒・保護者に、早い段階から積極的に進路情報を提供するように努める	・放課後の時間を活用した進学補習や夏期講習・小論文指導・面接指導などにより、個別対応を積極的に行い、進路希望を実現できる学力の養成に努める。		
	・進路選択と科目選択に関連づけた丁寧な指導に努める ・生徒や保護者の意向を汲み、個々の状況に応じたきめ細かい指導を行う ・進路希望の実現に向け、粘り強く取り組むよう支援・指導する	・高大連携による活動、進路ガイダンス、進路だより、模擬授業体験、職場見学を通して進路意識の向上を図る。また、社会状況の変化に対応した進路情報を随時提供し、学習意欲を高めることで進路実現を目指す。		
(4)県内大学との連携を活かした指導				
(5)生徒支援・学級経営時間の管理を意識した遅刻指導	・時間厳守、挨拶行などの基本的な習慣が身につくよう粘り強く指導する	・心の健康観察、面談をととして生徒の様子を把握し、対話をととして基本的な習慣が身につくように指導する。		
	・身だしなみ等については、本校規定に基づいて教職員全体で指導する	・挨拶及び遅刻指導、校外自転車指導を実施する。		
	・学年毎の頭髪服装検査、及び服装チェック指導を実施する。			
	・警察と連携し交通安全への意識を高める。			
(6)生徒に寄り添った指導、対話による指導	・実態にあわなない規定については見直し、実効性のあるものにする	・個人面談やアンケート調査により、いじめについての情報を共有し、未然防止、早期発見、早期対応を図る。		
	・教職員全体での情報共有を確実にし、組織的に対応する	・年3回の生徒指導研修に加え、SCと情報共有を密に行い、多面的に生徒の状況把握に努め組織的な教育相談を行う。		
	・有事の際には、法令および「いじめ対応マニュアル」により対応する	・学校行事や部活動、生徒会活動をととして、生徒が主体的に活動する場面を増やし、生徒の成長を支援する。		
	・計画的面談・緊急的面談を実施し、生徒理解	・教室等の校内美化を徹底するとともに、月1回保健だよりを発行し、感染症や自己の健康管理など健康・安全についての情報を提供する。		
(7)生徒の自律を醸成する指導。				
(8)校内の美化に努める。				

	に基づく丁寧な指導、学級運営を行う ・各種事案を担当等が抱え込まず、組織的に対応する ・スクールカウンセラー等を積極的に活用する				
(9)教職員の多忙化の解消	・統合型校務支援システムや採点システムの有効活用 ・ペーパーレス化等による会議の簡素化の取組を継続 ・業務の平準化を図る ・チーム学校	・学校閉庁時間の見直しを行うことや定時退庁日を設定し、教職員の勤務時間に対する意識改革を進める。			
		・グループウェアの掲示板や採点システムを効率的に活用するとともに、効率的に情報共有を行い業務がスムーズに進むようにする。			
		・ICTを効果的に用いて業務を進める。			
		・担任と副任の業務分担を状況に合わせて実施する。			
		・教職員が協働して業務を進めることで、休暇を取得しやすい雰囲気を作り出し、早出遅出勤務がしやすい体制にする。			
(10)社会貢献する志を育む教育の実践と情報の公開を行う。	・成年年齢引下げに係る対応に取り組む ・総合的な探究の時間での探究学習やボランティア活動等、地域貢献意欲や自己有用感を高める活動を推進する ・ホームページやnoteをとおして新潟東高校の魅力や生徒の活躍を発信する	・模擬選挙や租税教室を行うなうことで社会の一員としての意識の醸成を図る。			
		・高大連携を利用して、学びの過程を意識づけさせ、仲間と協働して「問い」を立て正解のない課題に対して解決する力を身に付けさせる。			
		・地域からのボランティア活動の要請に応え、地域と密着した活動を行う。			
		・ホームページの更新やnoteを週1回程度更新し、新潟東高校の魅力や新潟東高校生の魅力を発信する。			
成果			総合評価		